と思われる。

4. まとめ

久米島におけるトビイカ釣り漁業の状況について、地元における聞き取り調査、漁協セリ台帳の集計・分析、標本船調査等により、次のような結果を得た。

① 久米島におけるトビイカ釣り漁業は、島のすぐ近くの漁場において、比較的簡単な漁具・漁法である伝統的な〝引っかけ漁法〟によって営まれる。

② トビイカ釣り漁業はトビイカだけの漁獲が目的ではなく、マグロ・メカジキなど他の漁獲物をもねらっており、トビイカ以外の漁獲物に対する依存度はかなり高い。

③ トビイカ釣り漁業者は、トビイカ以外の時期には引き縄・刺し網・一本釣りなど他の漁業に従事しており、トビイカの漁期であっても状況によって他の漁業に出漁する。

④ トビイカ釣り漁業は1～2トンのサバニ漁船が主体となって、昭和56年7月下旬から12月下旬まで行われ、1出漁日当りの平均漁獲量は20～25kgと考えられる。

⑤ 久米島周辺におけるトビイカ資源量は年により変動するが、56年のトビイカ釣り漁業は55年に比べて好漁であった。本報告では56年のトビイカ生産量を49～61トンと推定した。

⑥ 56年には少なくとも漁家の半数以上はトビイカ釣り漁業に出漁したが、全体的な出漁日数は少なく、盛漁期の操業時間も短くなることから、56年のトビイカ釣り漁業は需要量によって制限されている状況にあったと思われる。

⑦ 久米島漁協のセリ市場におけるトビイカ価格は、品質・時期及び搬入量によって変動した。

(イ) 個々の取引価格では1kg当り100～950円の変動をしたが、250円以下の取引き量は極めて少なく、通常の状態での最低価格は300円であった。850円以上の価格も異例に属した。

(ロ) 漁期初めから9月上旬までは高値であるが、9月中旬～11月下旬の盛漁期には安くなり、12月になって再び高値となる。

(ハ) 9月上旬までの期間では、セリ市場への搬入量が300kg以下であれば1kg当り600円以上の価格であるが、300kg以上の搬入があると価格は大巾に下落する。

(ニ) 9月中旬以降の盛漁期においては、100kg以下の搬入量であれば450円前後の価格となるが、100～200kgの搬入量のときには400円前後となり、200kg以上の搬入になると350円程度に下る。

(ホ) 350kg以上のトビイカがセリ市場に搬入されると需要量を上まわることとなり、漁協の買取りによる価格保持と漁獲物の調整保管が必要となる。

⑧ 漁協によるトビイカの買取り量は2,725kgで、57年1月までには全て地元で販売された。しかし、トビイカの買取販売事業は、漁協にとって経営的なメリットはほとんどなかった。

⑨ 漁協のセリ市場に搬入されるトビイカは漁獲量の約30%と見られることから、久米島全体のトビイカ需要量はセリ市場の需要量のほぼ3倍と考えた。このことから、久米島における盛漁